

1978 (毎月1回発行)

5月号

(村の面積)
332.60km²

発行所 福井県大野郡和泉村



(昭和53年4月1日現在)

村の人口	1,804人
総人口	925人
男	879人
女	2人
出生	1人
死亡	23人
転入	56人
転出	56人
世帯数	542世帯

幼児の交通事故防止



交通安全教室 開催される

去る四月十三日、朝日、中竜両地区において、杉の子クラブ母親交通安全教室が開催されました。昨年県内において幼児の交通事故による死亡率は全国平均よりきわめて高い率を示めているため本年から毎月一回「幼児を交通事故から守る教室」を設定し、幼児の交通事故防止を図っています。

さいわい本村には、まだ一人の犠牲者も出ていませんが、こうした犠牲者を出さないために、杉の子クラブでは、毎月一回「第二木曜日」に街頭指導を実施することになりました。

写真はお母さん方の街頭指導の方法を勉強しているところです。

おわび

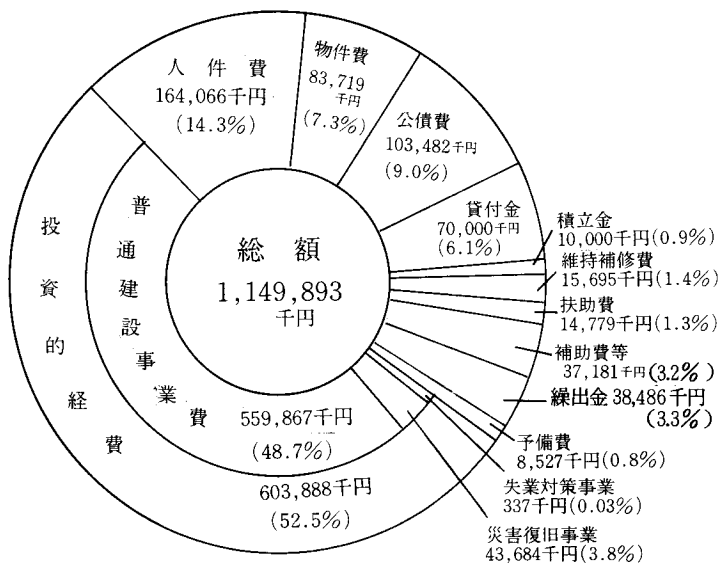
先月号で東海北陸中学生スキー大会の記事の中で、男子大回転に出場した谷選手が十六位と記載されていましたが、十五位の好成績でしたので訂正します。



財政事情の公表

和泉村財政事情

性質別歳出予算の内訳



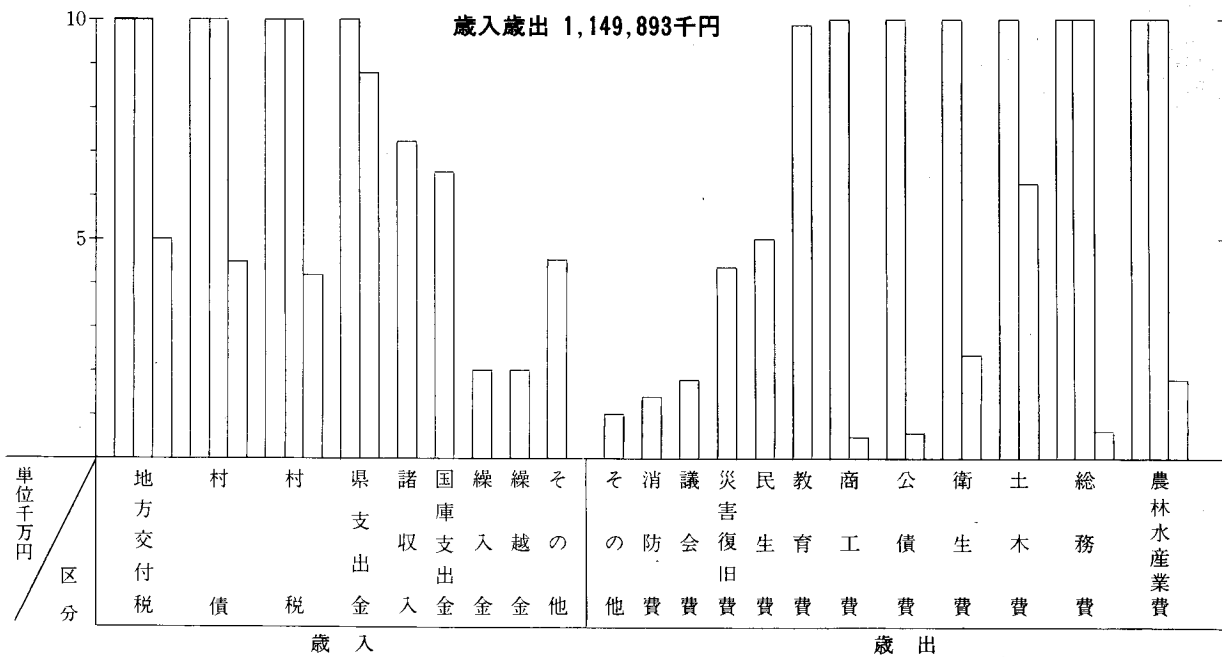
和泉村財政事情の作成及び公表に関する条例の定めるところにより、
 村の財政事情を公表します。
 今回は昭和五十三年度予算と昭和五十二年下半期の財政運営の状況
 について、そのあらましを説明します。
 この財政事情は村民の皆様には村財政の現況をお知らせし、その実態と
 村政の動きを十分に認識いただくものであります。
 今後とも村勢発展のため一層のご協力をお願いします。

昭和五十三年五月一日

和泉村長 加藤良雄

昭和53年度一般会計予算

歳入歳出 1,149,893千円



一般会計予算のあらまし

世界的な経済の低迷に加えて、円高がさらに不況に追い打ちをかけているなかで、昭和五十三年度の予算編成となりました。

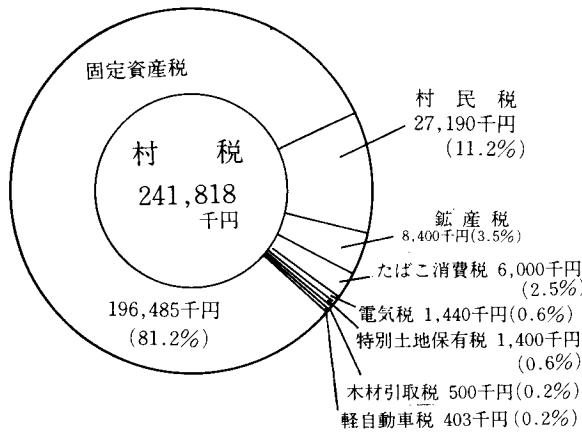
昭和五十三年度和泉村一般会計予算の総額は十一億四千九百八十九万三千円となり、前年度に対して二億六千五百二十九万九千円の増加、二十九・三%の伸びとなっております。

増額の大きな理由はゴミ処理施設の建設と国の公共事業推進に伴う景気回復対策の連動による公共投資の増加、並びに各区長さんを通じて要望のありました各地区の要望を積極的に取り上げたためであります。

予算の内訳については、別表各表のとおりであります。昨年策定されました総合計画を基調とし、厳しい諸条件の中で、父祖伝来のこの地「和泉」を定住の地とすべく、計画的な社会資本の整備と、きめ細かな福祉行政の充実を図りました。

この超大型予算の財源としては、税収その他の財源を基調とし、起債を積極的に活用しております。しかし、起債は借金であり、ますので、辺地債のような財源措置のある起債を選択して活用し、健全財政の維持に努める所存であります。

村税の状況



昭和53年度一般会計予算

《歳入》

単位 千円

款	本年度予算額	前年度予算額	比較
1. 村 税	241,818	247,558	△ 5,740
2. 地方譲与税	4,500	4,500	0
3. 自動車取得税交付金	4,500	4,500	0
4. 地方交付税	250,000	165,000	85,000
5. 交通安全対策特別交付金	10	10	0
6. 分担金及び負担金	17,905	16,574	1,331
7. 使用料及び手数料	2,243	1,302	941
8. 国庫支出金	66,024	79,967	△ 13,943
9. 県支出金	188,421	205,622	△ 17,201
10. 財産収入	15,948	5,942	10,006
11. 寄付金	10	10	0
12. 繰入金	20,000	30,000	△ 10,000
13. 繰越金	20,000	10,000	10,000
14. 諸収入	74,014	18,379	55,635
15. 村 債	244,500	100,000	144,500
計	1,149,893	889,364	260,529

村民の税負担の状況

《歳出》

単位 千円

1世帯当り	税 目	1人当り
542世帯		1,804人
50,166円	村民税	15,072円
362,518円	固定資産税	108,916円
744円	軽自動車税	223円
11,070円	たばこ消費税	3,326円
2,657円	電気税	798円
15,498円	鉦産税	4,656円
922円	木材引取税	277円
2,583円	特別土地保有税	776円
446,159円	計	134,045円

款	本年度予算額	前年度予算額	比較	本年度予算額の財源内訳			
				特定財源			一般財源
				国庫支出金	起債	その他	
1. 議会費	18,409	14,996	3,413				18,409
2. 総務費	205,055	204,941	114	27,900	19,000	983	157,172
3. 民生費	49,760	45,485	4,275	17,583		1,139	31,038
4. 衛生費	124,467	22,553	101,914	15,946	89,000	850	18,671
5. 労働費	385	390	△ 5				385
6. 農林水産業費	217,126	108,970	108,156	123,630	12,600	16,918	63,978
7. 商工費	102,500	31,256	71,244	10		70,332	32,158
8. 土木費	163,986	94,274	69,712	27,200	104,300	600	31,886
9. 消防費	14,168	14,453	△ 285				14,168
10. 教育費	98,249	87,902	10,347	4,227	15,000	512	78,510
11. 災害復旧費	43,684	171,427	△127,743	37,949	4,600		1,135
12. 公債費	103,567	82,405	21,162				103,567
13. 諸支出金	10	10	0				10
14. 予備費	8,527	10,302	△ 1,775				8,527
計	1,149,893	889,364	260,529	254,445	244,500	91,334	559,614

主 な 事 業 の 内 訳

款	項	事 業 名	予 算 額	内 訳				備 考
				国(県)支出金	起 債	その他	一般財源	
総 務 費	総務費	住宅資金貸付事業	10,000				10,000	
		村有林造林事業	5,614				5,614	
		駅前自転車置場整備事業	500				500	
		特定山村振興対策パイロット事業	53,325	26,500	19,000		7,825	植物園、遊歩道、キャンプ場、スキー場
		除籍等塗抹及び複製事業	1,900				1,900	
		廃棄物処理施設整備事業	110,000	15,750	89,000		5,250	
		ほ場整備事業	34,627	24,238		6,928	3,461	貝皿、板倉、下山
		池島用水整備事業	16,736	11,715			5,021	
		農業施設整備事業	12,930				12,930	
		農業近代化施設整備事業	12,025	9,019	3,000		6	乾燥施設ほか
衛 生 費	農林水産業費	農業機械運営費助成事業	2,000				2,000	
		林道整備事業	58,475	37,464	9,600	9,990	1,421	下谷線、野々小屋線、鮎ヶ洞線
		県単林道改良事業	7,150	2,860			4,290	
		黄れん生産流通改善事業	8,057	4,406			3,651	
		林業構造改善事業	39,996	31,366			8,630	造林施設、樹苗生産施設協業推進、しいたけ栽培
		淡水魚放流事業	2,000				2,000	
		商工振興資金預託事業	70,000			70,000		
		蛇鏡遊歩道整備事業	2,580				2,580	
		国民休養地整備事業	10,600				10,600	
		公園施設整備事業	1,850				1,850	
商 工 費	土木費	万本桜推進事業	1,000				1,000	
		鷺ヶ鞍岳遊歩道負担金	3,330				3,330	
		県道等改良事業負担金	4,000				4,000	
		道路台帳整備事業	4,200				4,200	
		除雪機械収納庫整備事業	8,500		6,300		2,200	
		除雪機械整備事業	13,800	9,200	4,600			
		村道改良補修事業	7,700				7,700	
		道路整備事業	50,100	8,000	40,400		1,700	
		橋りょう整備事業	23,300	10,000	13,000		300	
		河川整備事業	42,300		40,000		2,300	
教 育 費	教育費	教職員住宅購入事業	3,870				3,870	
		大納小体育館床張り替え事業	4,690				4,690	
		朝日中グラウンド整備事業	859				859	
		大納地区村民グラウンド整備事業	18,000	3,000	15,000			
災 害 復 旧 費	災害復旧費	林道災害復旧事業	35,054	32,193	2,000		861	
		河川災害復旧事業	8,630	5,756	2,600		274	
合 計			689,698	231,467	244,500	86,918	126,813	

特別会計予算について

特別会計予算については別表のとおりであります。簡易水道事業は特別会計で総額一億五千六百五十九万二千円となっております。前年度に比して一千三百六十六万六千円の減額となっております。

簡易水道事業を除く他の会計は前年度に比してそれぞれ増加しておりますが、簡易水道事業特別会計において水道改良工事が完成したため、大巾に減額となったためであります。

昭和五十二年下半期の財政運営の財政運営について

昭和五十二年下半期の財政運営については別紙のとおりであります。三月末における予算額は十億六千三百三十七万二千円であり、当初予算に比して一億七千四百八十八千円の増額、一九・六％の増となっております。

支出については、予算計上した事業は全部完成の見込であります。又、収入についても歳入として見込んだ財源はほとんど確保され、県支出金、起債等も五月末までに見込みであります。尚、三月末において歳入の収入済額と歳出の支出済額の差の不足額三千三百七十三千円は一時借入金をして経理しております。

昭和53年度特別会計予算状況

会 計 名	53年度	52年度	比 較
簡易水道事業	3,629	23,085	△19,456
国民健康保険事業	32,823	30,195	2,628
診療所事業	20,140	19,214	926
農業共済事業	5,943	5,243	700
スキー場事業	43,115	41,019	2,096
計	105,650	118,756	△13,106

議員さん紹介

議員 谷 義 明

一、趣味
人間それぞれ顔が違うように、趣味もいろいろあります。私もこの歳になってもスキーが好きで、息子等に危いから止めろと言われながら、冬になるとよくスキー場に出かけます。歳寄りの冷水で上達はしないが若い者に混って滑べるのは、仲々面白いものであります。

昭和53年度 体育振

健康で明るい村づくり

「村民、みなスポーツの和泉」を

月				5	6	7	8	
行事	月							
	日				4 第6回 村民野球大会	7.8 第7回 村民卓球大会	18 第7回 村民バレーボール大会	2 第6回 村民ソフトボール大会
スポーツ教室	朝 日 成 人	会 場	曜日・時間			卓 球 (I)		
		中央公民館	(月) 7:00 ~ 9:00	5. 22 ~ 7. 31				
			(水) 7:00 ~ 9:00	バドミントン (I)				
			(金) 7:00 ~ 9:00	5. 26 ~ 7. 26				
	バレーボール (I)	5. 26 ~ 7. 28						
	軟式テニス	5. 18 ~ 10. 12						
	九頭竜スキー場	未 定						
	中 竜 成 人	村民体育館	(月) 7:00 ~ 9:00	バドミントン (I)				
			(火)(木)7:00 ~ 9:00	5. 22 ~ 7. 31				
			(金) 7:00 ~ 9:00	テニス (I)				
第1・3(水) 7:00 ~ 9:00	5. 23 ~ 7. 27							
バレーボール (I)	5. 19 ~ 7. 28							
黒谷スキー場	未 定					親 子		
少年	村民体育館 プール・スキー場 各 学 校	年間を通して 5:30 ~ 7:00 未 定 4:30 ~ 6:00				水 泳		
ソフトボール	5. 15 ~ 10. 21							
クラブ・サークル	一 般	軟式野球クラブ(九龍クラブ、電発クラブ、中竜クラブ)		バドミントンクラブ(中竜クラブ)		婦人体力づくりグループ(中竜婦)		
	少 年	サッカー、バスケットボール バレーボール、卓 球		年間を通して 4:30 ~ 6:30		スキークラブ(和泉スキークラブ)		
				各学校、村民体育館、中央公民館				

興事業計画

家庭・職場掲示

さして

和泉村教育委員会
和泉村体育協会

9	10	11	12	1	2	3
上 中 第7回 村民 ソフト ボール 大会	上 第7回 村民 野球 大会 下 第7回 和泉 駅伝 競争 少年 スポ ーツ 大会 村民 マラ ソン 大会	上 第2回 村民 スポ ーツ 少年 大会 中 第8回 村民 バレー ボール 大会 下 壮年 体力 テスト 大会		20~21 第31回 県体 冬季 大会	中 第3回 奥越 スキ ー選 手権 下 第3回 村民 スキ ー大 会	
	卓球 (Ⅱ) 9. 4 ~ 12. 11				バドミントン (Ⅲ) 1. 17 ~ 3. 14	
	バドミントン (Ⅱ) 9. 6 ~ 12. 6				バレーボール (Ⅲ) 1. 19 ~ 3. 16	
	バレーボール (Ⅱ) 9. 1 ~ 12. 8				スキ ー 12. 25 ~ 3. 20	
	バドミントン (Ⅱ) 9. 4 ~ 12. 11				バドミントン (Ⅲ) 1. 22 ~ 3. 19	
	テニス (Ⅱ) 9. 7 ~ 12. 15				テニス (Ⅲ) 1. 23 ~ 3. 20	
	バレーボール (Ⅱ) 9. 1 ~ 12. 15				バレーボール (Ⅲ) 1. 19 ~ 3. 16	
レク レ シ ョ ン 5. 3 ~ 3. 21					12. 25 ~ 3. 20	
中 竜 剣 道 5. 18 ~ 3. 17					スキ ー 12. 25 ~ 3. 20	
卓球クラブ(中竜クラブ)				週一度 汗流す よろこびを 教室で!!		
会) 中竜クラブ)						

昭和52年度一般会計予算の状況 (53年3月末現在)

《歳出》						《歳入》					
区分	当初予算	補正額	現計予算	支出済額	支出率	区分	当初予算	補正額	現計予算	収入済額	収入率
1. 議会費	14,996	3,502	18,498	17,990	97.3	1. 村税	247,558	9,061	256,619	254,950	99.3
2. 総務費	204,941	54,506	259,447	238,006	91.7	2. 地方譲与税	4,500	-	4,500	3,034	67.4
3. 民生費	45,485	461	45,946	43,003	93.6	3. 自動車取得税	4,500	-	4,500	5,292	117.6
4. 衛生費	22,553	3,376	25,929	23,649	91.2	4. 地方交付税	165,000	77,310	242,310	262,048	108.1
5. 労働費	390	-	390	5	1.3	5. 交通特別交付金	10	-	10	-	-
6. 農林水産業費	108,970	6,743	115,713	102,052	88.2	6. 分限負担金	16,574	△1,368	15,206	3,922	25.8
7. 商工費	31,256	8,081	39,337	38,000	96.6	7. 使用料及び手数料	1,302	-	1,302	1,698	130.4
8. 土木費	94,274	55,860	150,134	98,739	65.8	8. 国庫補助金	79,967	10,981	90,948	66,798	73.4
9. 消防費	14,453	△1,584	12,869	12,741	99.0	9. 県支出金	205,622	20,472	185,150	154,652	83.5
10. 教育費	87,902	11,746	99,648	87,637	87.9	10. 財産収入	5,942	11,232	17,174	15,461	90.0
11. 災害復旧費	171,427	4,696	176,123	161,975	92.0	11. 寄付金	10	-	10	-	-
12. 公債費	82,405	5,870	88,275	87,985	99.7	12. 繰入金	30,000	-	30,000	-	-
13. 諸支出金	10	30,000	30,010	260	0.9	13. 繰越金	10,000	28,424	38,424	38,424	100.0
14. 予備費	10,302	△9,249	1,053	-	-	14. 諸収入	18,379	15,940	34,319	18,989	55.3
計	889,364	174,008	1,063,372	912,042	85.8	15. 村債	100,000	39,900	139,900	53,700	38.4
						計	889,364	174,008	1,063,372	878,969	82.7

又スキーを通じていろいろな人を知ることが出来て、よい勉強になった事も沢山あります。

二、抱負

最近、全国的に山村がさびれ、都会が賑わっている現象を起しています。

和泉村もこの例に洩れず、毎年人口が減って来ています。

これを過疎と表現して、種々対策が云々されています。

本村の場合は結婚、出産に税金と、持家融資の制度を適用していますが、これだけでは十分な決手になりません。

最近都会周辺の土地の高騰と、不況の関係で、Uターンして村内に就職する若者が、ぼつぼつではあるが、増えて来ているのは喜ばしい事でありませぬ。

但し現在はこれ以上若者が帰って来ても、村内には就職する職場の無いのが悩みの種で、村民の中には、うちの息子も職場さえあつたら、帰りたいと言つて居られる家庭も沢山あります。

経済の低迷する現在、非常に困難な問題であります。過疎の防止には、先づ若い後継者の定着が必要でありますので、若者に適した職場づくりに取り組み事が、これからの課題であります。

昨年、和泉村総合計画が完成し長期に亘る展望が、構想されていますので、これを基本に、特定山村振興パイロット事業と、今年より四ヶ年計画で進められる国民休

養地、及び林業構造改善事業等と鑑み、この職場の問題を真剣に考えたいと思います。

三、希望

今、和泉村が直面している問題は、前述の外に交通の生命線でもある、国道一五八号線の油坂隧道の早期着工と道路の改修、越美南

北線の全線促進、及び奥産道路の改修等、本村の将来を左右し発展に大きく影響を及ぼす重要な事ばかりで、これの早期実現に全力を挙げて、運動を推進しなければならぬ。

これらが完成すれば、中京方面と北陸を最短距離で結ぶことが出来る。

本村には立派な自然と、日本でも有数のうちに位するダムがあり又、あらゆる資源も豊富である。

角野地区に出来る国民休養地計画と、タイアップして、観光内容を充実し、四季を通じて観光客の誘致を計れば、商工業の振興と共に、観光和泉の名にふさわしい潤いのある村づくりが、出来るのではないかと思ひます。

四、雑感

十年一昔と言う諺がありますが和泉村の過去を振り返ると、この十ヶ年の変貌は実に驚異的なものであります。

先づ国道は二車線に舗装整備され、冬期間でも車の通行が可能になりました。昔は冬期間は陸の孤島で急用の場合は一日がかりで、大野や白鳥まで歩いたものです。

上流には九頭竜ダムが出来て、和泉村の過半数が他の地方に移住し、村の規模が半分以下になったが、その反面恵まれた自然とダムにより一躍観光地として脚光を浴び、観光客が訪れるようになった。越美北線が朝日まで敷設され、大野市まで通勤通学が可能になった。

文化の発展と共に生活水準が高くなり、都会と山村の差があまりなくなつてきました。これに伴い自家用車の進出が目覚ましく、程ほどの家庭で自動車を持つている。

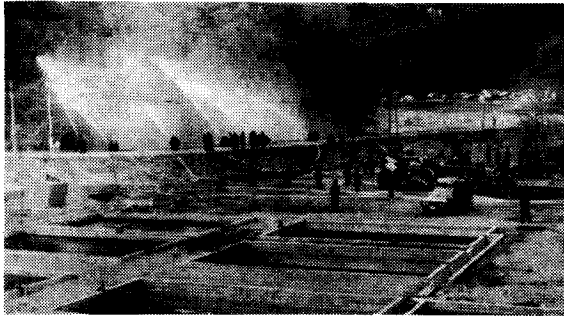
一々あげれば切りがないが、およそ十年前には、想像も出来なかつた程、見事な変り映えでありませぬ。

僅か十年でこれだけ進歩するのだから、後十年も経つたらそれこそ想像を絶するだろうと思ひます。何事も先見の眼をもって対処せねば、将来に悔を残す事になりかねない。慎重に考えねばなりません。

議員 工藤勝雄

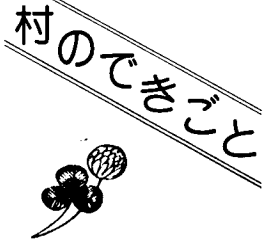
一、趣味

私の場合、年代によって趣味も多少変わつてきておりますが、振り返って見ると、映画を見ること(とくに洋画)読書は今だに変わることなく、長続きをしている。最近、時間にも余裕がなく、月



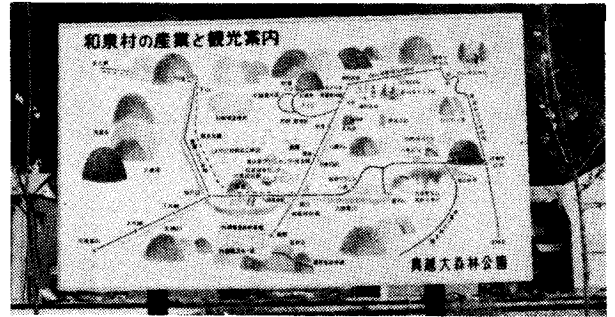
和泉村消防団では、去る四月三十日午前九時から昭和五十三年度春季消防訓練を行いました。
(写真は放水訓練です)

春季消防訓練を 実施 和泉消防団



奥越森林自然公園事業の一貫としてこのほど国鉄九頭竜湖駅前に和泉村の産業と観光案内の立看板が設置されました。
この立看板は奥越大森林公園内に現存する自然景観地及び優良造林地等に対して興味を喚起させることを目的として設置されたもので、村内の林業、産業、観光等が照会されています。

和泉村の産業と 観光案内立看板 設置される

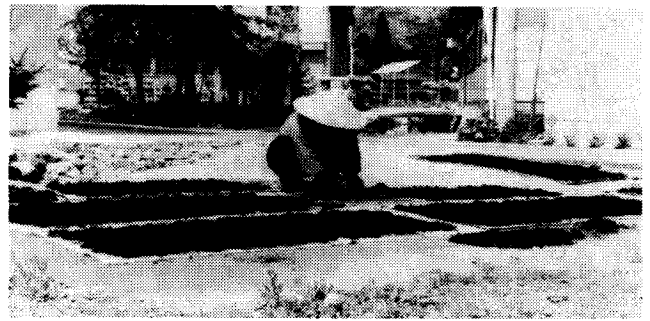


今冬は雪無しの年末、年始のため、スキー場開きが一月六日と遅れ、スキー場の営業実績も前年に比較し、大幅な減少となり、当初予定した営業目標を達成する事は出来ませんでした。しかし、一月十五日には、リフト二基で九四五七人の輸送実績を達成するなど、今シーズンにかける期待は大きく、今後は、県内外のPRに全力を尽くすとともに施設の整備、拡充を計り、今シーズンの目標達成に努力したいと思えます。

'77 スキーシーズン を終了して

五月の声とともに野山が緑一色「さわやか」な季節となり、各地区の山では、山採の最盛期で、ぜんまい、わらびなど採集の人々にぎわいを見せています。
写真は、ぜんまいのほしあげを行なっているところです。

山菜の収穫



- (前頁より)
- | | | |
|---------|------|--------|
| 一分団 | 班長 | 古川 渉 |
| 二分団 | " | 谷 政信 |
| 三分団 | 団員 | 松田 衛 |
| 四分団 | 副分団長 | 伊丸岡三郎 |
| " | 班長 | 鳥谷部治三郎 |
| " | " | 鳥崎正意 |
| 団長特別功労章 | | |
| 三分団 | 団員 | 吉岡和男 |
| 団長功労章 | | |
| 一分団 | 班長 | 奥村 勤 |
| " | " | 藤田新市 |
| " | " | 中村洋一 |
| 二分団 | 団員 | 谷 秀明 |
| 三分団 | " | 丸山義治 |
| 四分団 | " | 武田誠哉 |
| " | " | 菅野庄次郎 |
| " | " | 加賀正次郎 |
| 団長操法功労章 | | |
| 四分団 | 部長 | 宮腰輝夫 |
| " | 班長 | 西野善孝 |
| " | 団員 | 坂下祐助 |
| " | " | 池田義則 |
| " | " | 佐々木徳一 |

